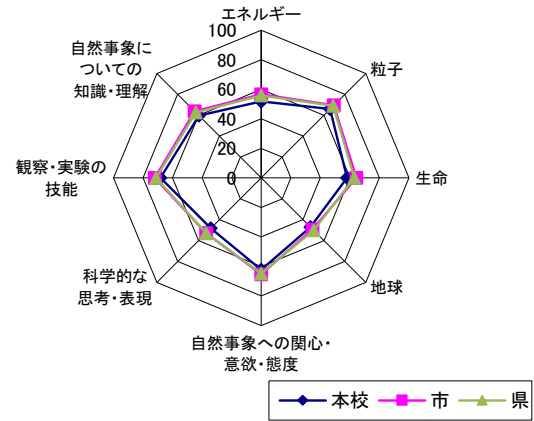


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	51.8	56.6	55.8
	粒子	65.9	69.6	69.0
	生命	58.1	64.4	63.0
	地球	47.1	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.2	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	48.3	52.8	52.8
	観察・実験の技能	68.2	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	59.7	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	音の性質においては県の平均とほぼ同じである。 ●エネルギーの分野では、県の平均を4.0ポイント下回っている。 ●光の性質においては、県の平均を10.8ポイント下回っている。 ●力と圧力においては、県の平均を7.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・エネルギーの音の分野では波という現象に対して苦手意識があり、音速を求める計算などを復習問題で取り入れていく。 ・実像・虚像の向きについて定期的に復習問題を用いて説明する。また、作図等をさせる。 ・圧力の問題では単位換算などがあり、小数の計算ができない等のつまずきがある。実験などで出た結果を用い利用する等、計測値の計算を多く取り入れていく。
粒子	○気体の集め方では、県の平均を3.1ポイント上回っている。 ●粒子モデルでは、県の平均を7.3ポイント下回っている。	・基礎基本の用語等の意味を確認させ、それから深化させていく段階的手立てを用いて学習内容の理解を図る。 ・肉眼では見えないものをイメージできるよう、モデル図などを視覚的に捉えさせ、理解の定着に努める。
生命	●生命の分野では、県平均を4.9ポイント下回っている。特に、植物のからだのつくりとはたらきでは、県の平均を9.3ポイント下回っている。	・対照実験で結果から二つの差を比較すること等を苦手としている。今後も実験等で考えを練り上げていく過程を大切にさせる。 ・実体験が少なく、思考するまでに至らないこともあるため、授業での経験値を増やしていく。
地球	●地球の分野では、県の平均を3.1ポイント下回っている。 ●地層の分野では、県の平均を6.3ポイント下回っている。 ●火山の分野では、県の平均を10ポイント下回っている。	・地層の年代等を発掘した化石から推定する等の基本的知識の定着を図るために、岩石や化石などの標本に触れる機会を多くし、興味・関心を高めるとともに実物と知識を結びつけていく。 ・防災教育と関連させながら、1年時の復習を日々の授業で取り入れていく。